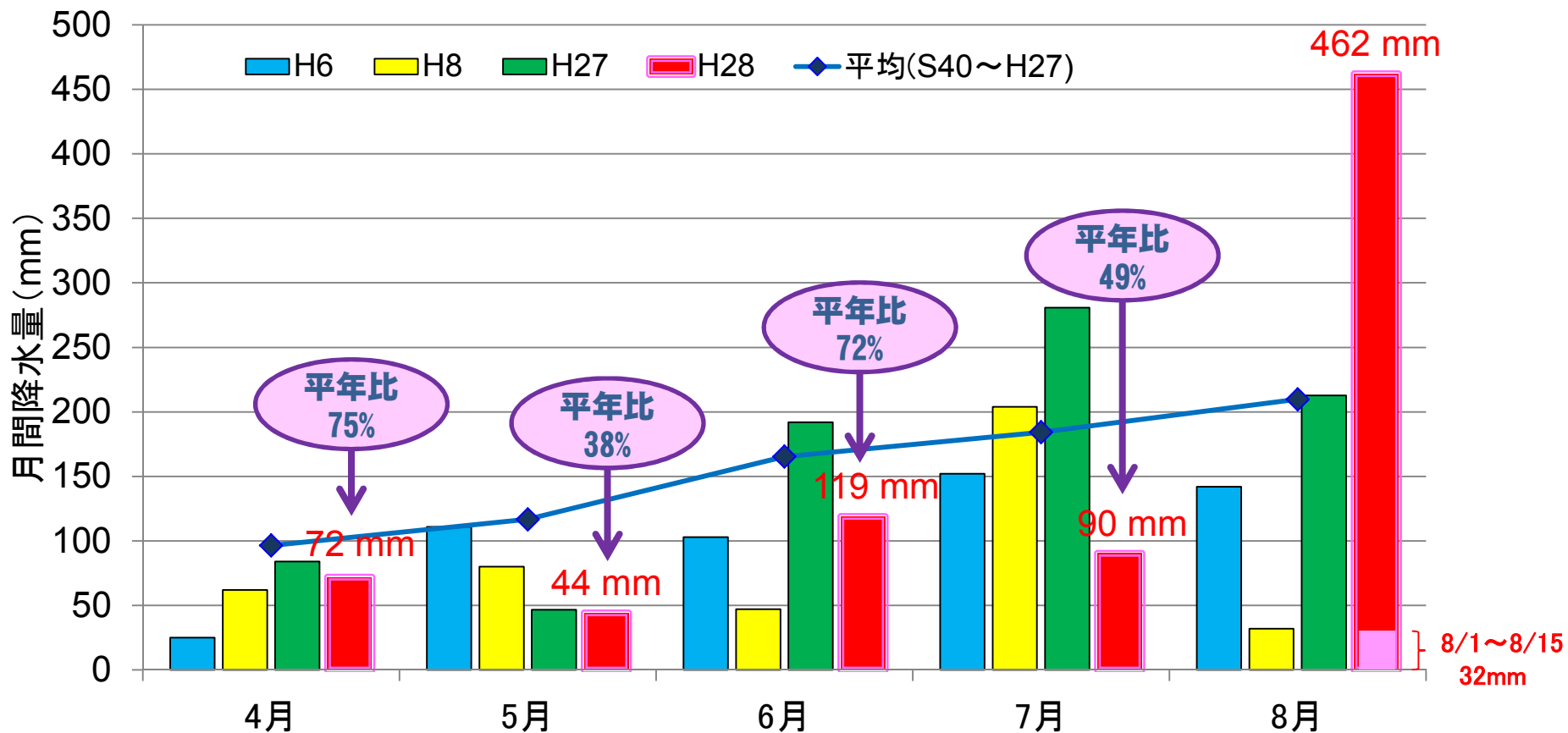


平成28年4月～8月の降水量

- ・荒川流域の降水量は4月～7月にかけて平年を大きく下回る状態。8月に入っても、8月15日までの降水量はわずか32mmと少雨傾向が継続した。
- ・4月～7月の合計降水量は、過去に荒川水系で取水制限を実施した平成6年や平成8年よりも少ない。

荒川流域降水量

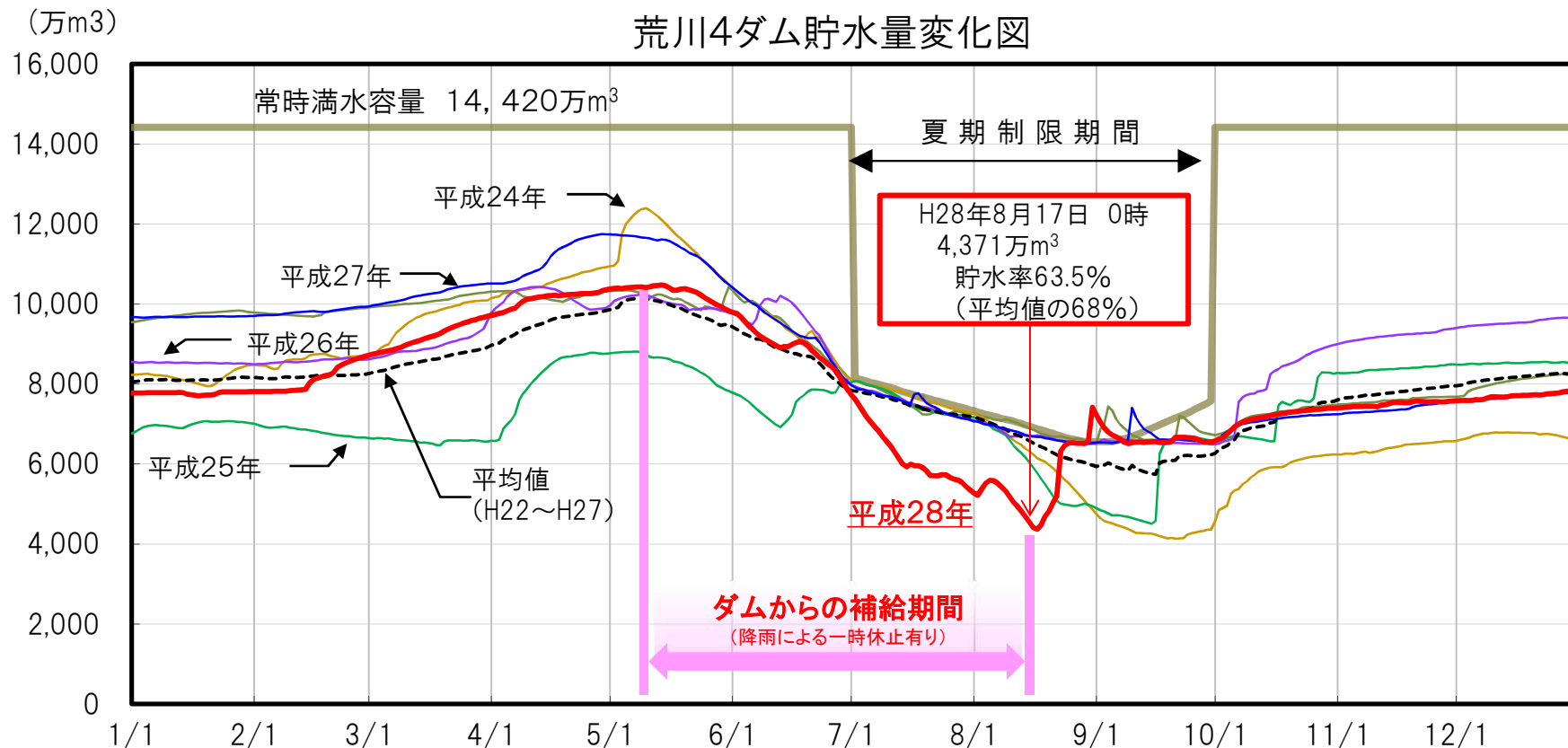


※秋ヶ瀬地点上流域の平均降水量

荒川4ダムの貯水量変化

- ・少雨により河川流量が少ない状況となったため、荒川4ダムでは5月上旬から利水補給を開始し、水道用水及び農業用水の取水量を確保。
- ・7月以降、荒川4ダム体制となった平成22年以降で最も貯水量が少ない状態が継続。
8月17日には、4ダム合計の貯水率は63.5%(H22~H27平均値の68%)まで低下した。
- ・4ダムからの利水補給により、荒川水系においては取水制限の実施に至ることなく必要な水量を確保することができた。

※荒川4ダム: 二瀬ダム(国土交通省)、荒川貯水池(国土交通省)、浦山ダム(水資源機構)、滝沢ダム(水資源機構)

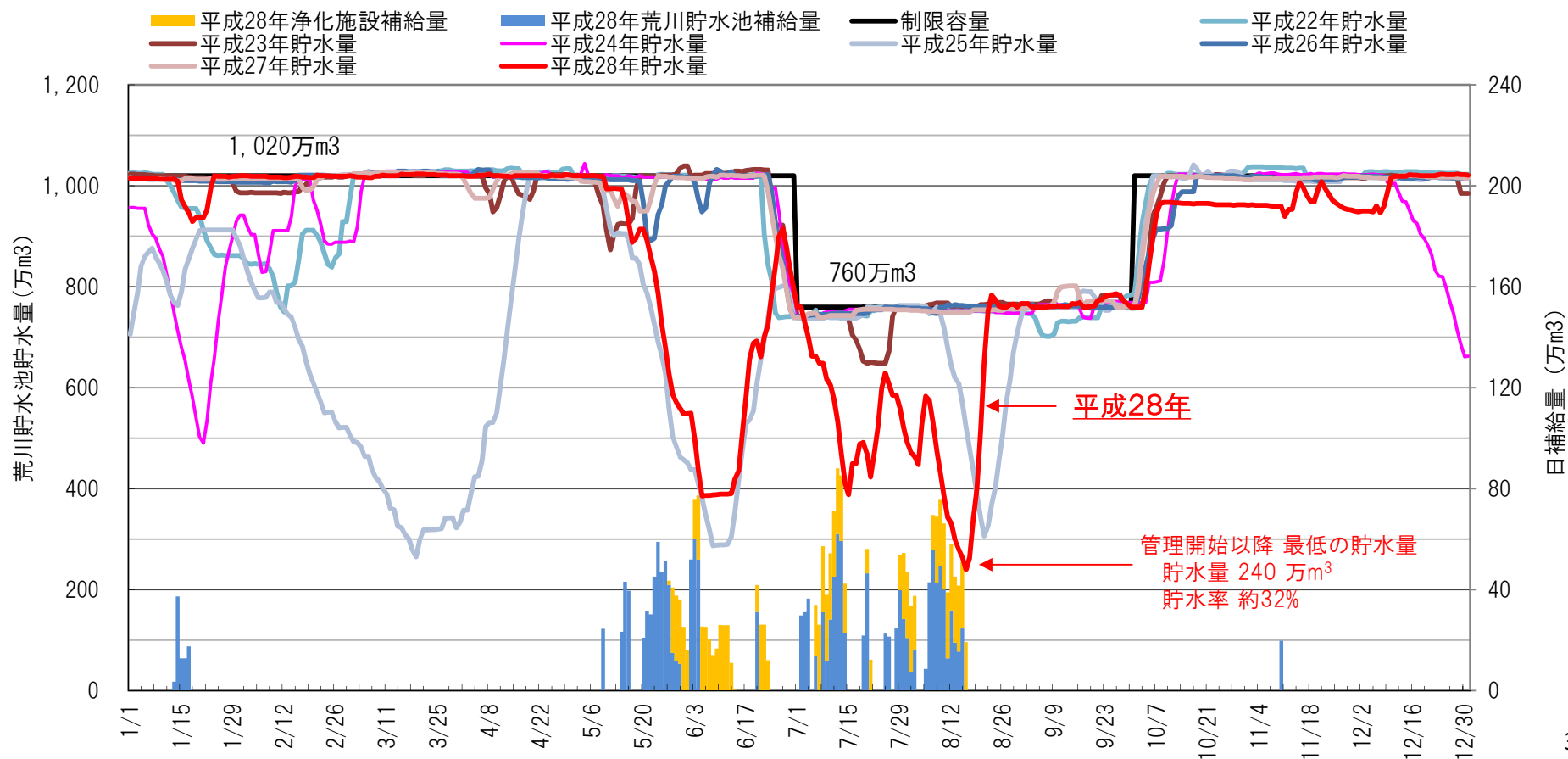


荒川貯水池の貯水量と平成28年の利水補給の実績

- ・荒川貯水池(彩湖)においては5月9日から、隣接する河川浄化施設は5月27日から水道用水の補給を開始し、8月16日までの約3ヶ月にわたり、断続的に水道用水の補給を実施。
- ・平成28年の補給量は、荒川貯水池から約1,760万m³、隣接する河川浄化施設から約1,030万m³の、計約2,790万m³(東京ドーム約22杯分)に。
- ・一日最大で約88万m³の水道用水を補給。これは約350万人が一日に使用する水量に相当。

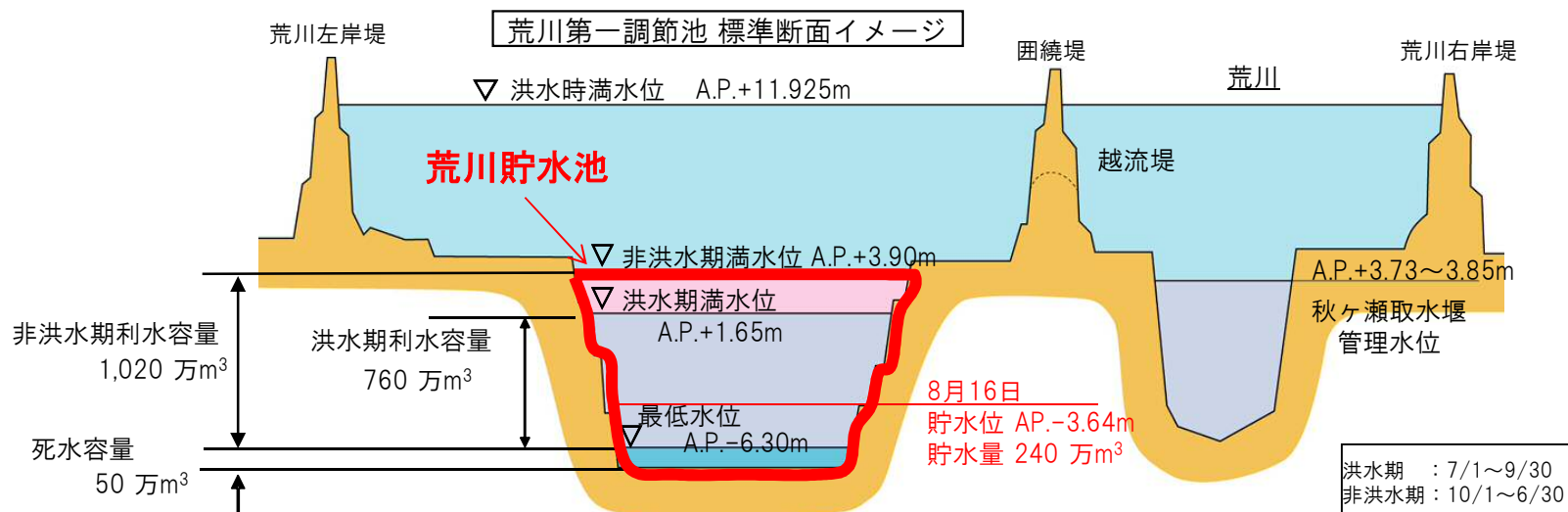
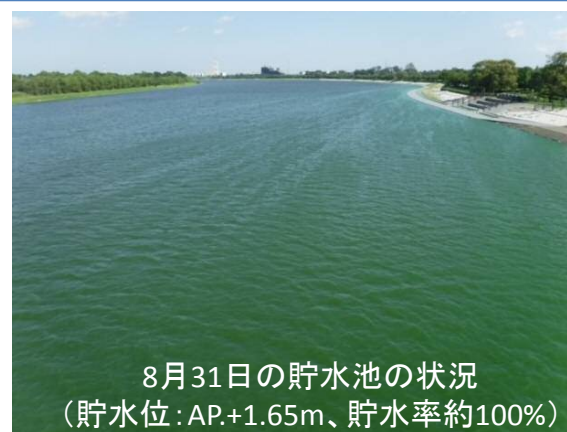
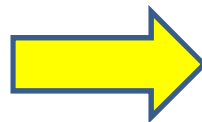
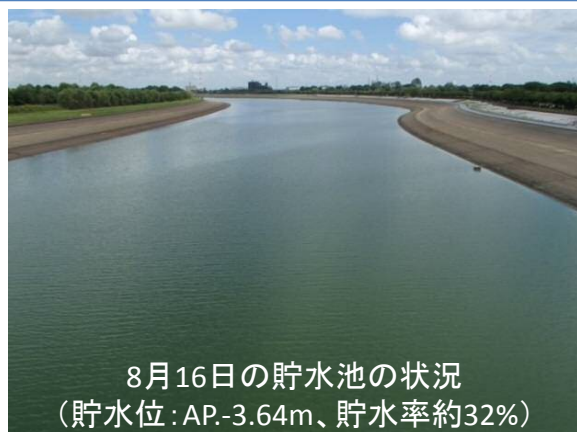
※荒川貯水池(彩湖)と河川浄化施設による利水補給のしくみは最終頁参照

荒川貯水池の貯水量とH28補給実績



荒川貯水池の状況～管理開始以降最低の貯水量を記録～

- ・断続的な水道用水の補給により、荒川貯水池(彩湖)の貯水量は、平成9年に管理を開始して以降の最も少ない約240万 m^3 (貯水率約32%)まで低下(8月16日)。
- ・その後、相次いで関東地方に接近・上陸した台風7号、9号及び10号に伴う降雨により、8月後半だけで過去平均の2倍を超える降水量を記録。
- ・荒川の流量が回復したことから、荒川の水を貯水池に取り込むことができ、8月22日に貯水率は100%に回復した。



荒川上流3ダムの状況

- ・荒川上流の各ダムの貯水量は利水補給により低下し、8月16日～18日にかけて今年最低の状態に。
- ・その後、相次ぐ台風の接近に伴う洪水を貯留し、8月31日時点で全ダムで貯水率100%に回復

二瀬ダム



8月16日9時撮影

最低貯水量時

8月16日 18時
貯水位 EL.503.01m
貯水量 32.6万m³

滝沢ダム



8月17日9時撮影

8月17日 20時
貯水位 EL.527.29m
貯水量 1691.8万m³(貯水率68.9%)

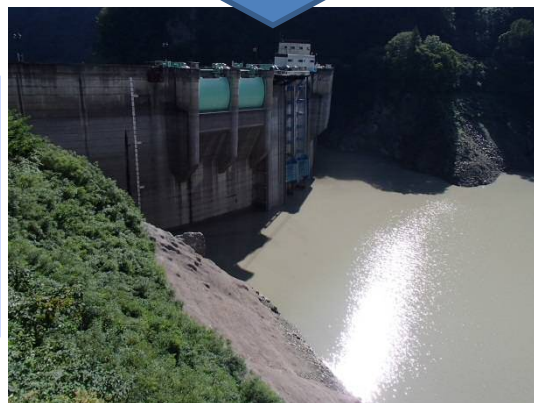
浦山ダム



8月18日9時撮影

8月18日 11時
貯水位 EL.360.74m
貯水量 2357.2万m³(貯水率71.4%)

8月31日時点



8月31日 9時
貯水位 EL.507.91m
貯水量 130.6万m³(貯水率100%)

※洪水調節により夏期制限水位を超えて貯留中



8月31日 9時
貯水位 EL.541.28m
貯水量 2711.4万m³(貯水率100%)

※洪水調節により夏期制限水位を超えて貯留中



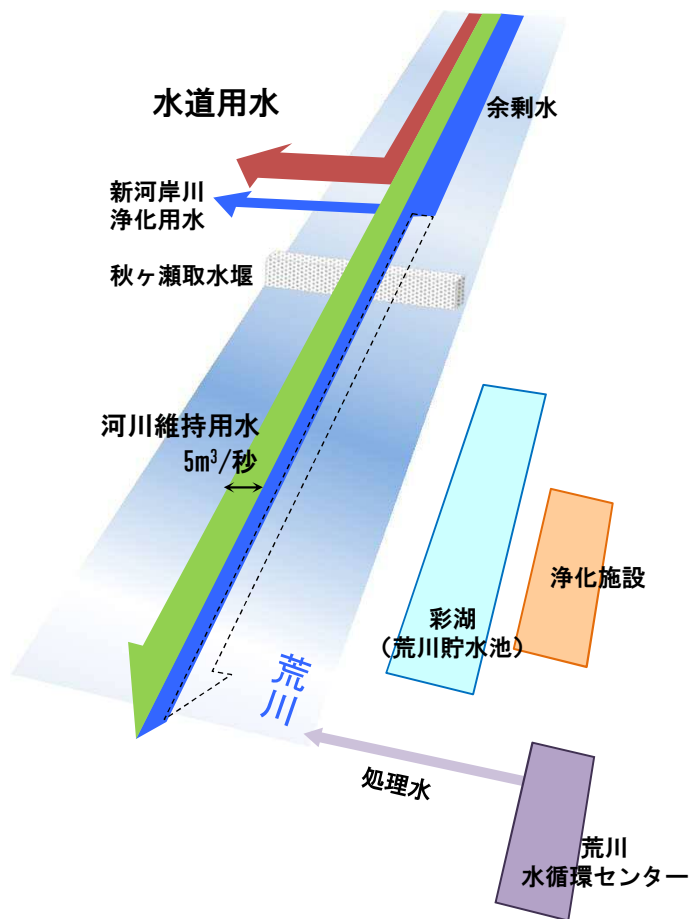
8月31日 9時
貯水位 EL.374.67m
貯水量 3546.0万m³(貯水率100%)

※洪水調節により夏期制限水位を超えて貯留中

(参考) 荒川貯水池(彩湖)及び浄化施設による利水補給

荒川本川流量で水道用水が取水できるとき

- ・堰上流で必要な水量を取水します。
- ・余剰水は堰下流へ放流するとともに、新河岸川への浄化用水として利用します。
- ・彩湖の貯水量が少ない場合には彩湖に取水することもあります。



荒川本川流量で水が足りないとき

- ① 彩湖(荒川貯水池)から堰の上流に補給します。
 - ② 下水処理水を浄化施設に導水して浄化し下流することにより、堰下流への河川維持用水を減量し、その減量分が水道用水の取水が可能となります。
- (①または②、あるいは両方同時に運用されます)

